
令和5（2023年）年度
美術館教育普及報告書



沖縄県立博物館・美術館

令和5年度

美術館教育普及報告書

目次

- 2 はじめに
- 3 本年度の取り組み
- 4 学芸員講座+キュレータートーク①
- 5 学芸員講座+キュレータートーク②
- 6 アーティストトーク・ギャラリートーク①
- 7 アーティストトーク・ギャラリートーク②
- 8 照屋勇賢展・舞踊公演+クロストーク①
- 9 照屋勇賢展・舞踊公演+クロストーク②
- 10 美術館ミュージアムツアー
- 11 慰霊の日関連催事
- 12 美術館・学校支援プログラム
- 13 鑑賞支援プログラム①
- 14 鑑賞支援プログラム②
- 15 児童・生徒の声
- 16 ボランティア活動
- 17 教職員等、研修の受け入れ
- 18 美術館 職場体験
- 19 学芸員実習①
- 20 学芸員実習②
- 21 OKINAWA アートワークショップ 2023 ①
- 22 OKINAWA アートワークショップ 2023 ②
- 23 OKINAWA アートワークショップ 2023 ③
- 24 OKINAWA アートワークショップ 2023 ④
- 25 夏休み！こどもフェスタ 2023 ①
- 26 夏休み！こどもフェスタ 2023 ②
- 27 夏休み！こどもフェスタ 2023 ③
- 28 アートコンクール
- 29 アートコンクール（審査講評）
- 30 移動展 in 国頭村
- 31 美術館コレクション展
「具志堅聖児 日本画展」・「沖縄美術の流れ」
- 32 美術館コレクション展「大城皓也作品修復報告展」
- 33 美術館コレクション展
「大和コレクション展 vol. 9 アートの愉しみ」
- 34 美術館コレクション展「沖縄美術の流れ」
- 35 美術館企画展
「照屋勇賢 OKINAWA HEAVY POP」 ①
- 36 美術館企画展
「照屋勇賢 OKINAWA HEAVY POP」 ②
- 37 美術館 事業報告①
- 38 美術館 事業報告②
- 39 美術館 事業報告③
- 40 美術館 事業報告④
- 41 さいごに

[はじめに]

沖縄県立博物館・美術館は、「おきみゅー」という愛称で親しまれ、おかげさまで開館 16 年目を迎えました。美術館の活動におきまして、今年度は様々な展示や催事を行って参りました。沖縄の芸術に触れるために、多くの方が日々足を運んでくださることは、当館にとって大変な励みになりましたこと、皆様に心より感謝申し上げます。

さて、美術館の主な活動内容には「資料収集」・「保存管理」・「調査研究」・「展示公開」・「教育普及」の 5 つの柱があります。教育普及活動は、美術館が文化・芸術の発信拠点として、交流や皆様とのつながりを大切にしながら、誰もが美術を通して新たな価値に出会える場を創出し、より多くの方が美術に親しみ、楽しんで頂くことを目的としております。

本報告書は、令和 5 年度に実施した美術館の企画展、コレクション展、それらに伴う関連催事、学校支援プログラム、各種ワークショップ、ミュージアムツアーなど、幅広い教育普及事業の活動内容をまとめたものです。

常に新しいプログラムに取り組むことにより、美術館と外部団体、個人とこれまでにない新たな結びつきを生み出し、新規来館者の開拓と新たな価値を発信することができたと考えております。

本報告書が、これまで以上に沖縄県立博物館・美術館をご愛顧いただく契機となりますよう期待するとともに、教育普及活動に対するご理解への一助になれば幸いです。

令和 6 年 3 月 沖縄県立博物館・美術館 館長 里井洋一

[本年度の取り組み]

今年度は、新型コロナウイルス感染症の位置づけが「5 類感染症」になった 5 月 8 日を境に、当館の教育普及事業も活気を取り戻してきたように思います。法律に基づき行政が様々な要請・関与をしていく仕組みから、個人の選択を尊重し、国民の自主的な取り組みをベースとした対応に変わっていくことで、少しずつ世の中が明るい方向へ進んでいるのではないかと感じます。

その状況に伴い、当館では、昨年度に比べ学校団体が利用する「学校支援プログラム」への申し込みが増え、年間を通して累計 15 校の学校に「鑑賞支援プログラム」を活用して頂きました。昨年、一昨年と、1 校も申し込みの無かった出前授業は、今年度 5 校の申し込みがあり、学校へ何う度に人と人との交流が戻ってきたのだと実感しました。また、ご来館頂いた学校団体からは、「美術について深く知ることができた」、「会話をしながらの鑑賞は、とても楽しかった」、「また美術館に来たい」など多くの感想やお手紙を頂き、職員一同大変励みになりました。今後も、時代や情勢の変化に応じた新たなプログラムを模索しながら、内容の充実を図りたいと思います。

さて、今年度開催した、子どもから大人まで参加出来る「OKINAWA アートワークショップ 2023」は、『さあ行こう美術館へ！ はじめの 1 歩を踏み出そう！』～観る楽しさ・描くおもしろさ・つくる喜びを感じよう～というテーマのもと、全てのワークショップを予定通り開催することができました。どのワークショップも大変好評で、参加して頂いた皆様の集中力と、楽しそうな笑顔から元気を頂きました。次年度は、更に内容を充実させ、より一層喜んで頂けるような新たなワークショップの開発に、意欲的に取り組みたいと思います。また、「夏休み！こどもフェスタ 2023」は、台風 6 号の影響で、1 週間延期し開催しました。日程が変更になったことで、参加できなかった方がいたのは残念でしたが、講師の皆さんのご協力のおかげで、無事に終えることができました。

今年度 7 回目の開催となった、県内の児童・生徒を対象とした「アートコンクール」では、985 点もの応募がありました。2020 年から続くコロナ禍で、好きな事をやったり、好きな物に触れることすらできない時期がありました。そこで、改めて自分自身の好きな事や、ものに向き合っていて欲しいという思いから、今年度のテーマを「好き」としました。児童・生徒の皆さんが「好き」を表現することのできる、平和な日常に感謝すると共に、未来を担う子供たちが、自分自身の目で見え感じ、思ったこと、考えたことを表現した作品には、それぞれの熱い「思い」が込められていたように思います。次年度も、ぜひ、多くの素晴らしい作品の応募をお待ちしています。

今年度のコレクション展は「大和コレクション展 vol. 9 アートの愉しみ」と「沖縄美術の流れ」を通年で開催し、「大城皓也作品修復報告展」を後期で開催しました。「大和コレクション展 vol. 9」は、前期・後期で全ての作品を展示替えすることで、皆様に多くの現代アートを愉しんで頂くことができました。「沖縄美術の流れ」は、水彩画や版画、日本画など繊細な作品の一部展示替えを行いながら、1 年を通して、沖縄ゆかりの作品に触れて頂きました。

企画展では「照屋勇賢 OKINAWA HEAVY POP」を開催し、県内外から多くの方々に来館して頂き、「舞踊公演+クロストーク」等、新たな取り組みを実施することもできました。また、コレクション展・企画展共に、多くの関連催事を通して作品理解を深めるための情報を提供しました。以上のように、今年度も、多くの個人・団体と連携し、当館の教育普及事業の充実を図ることができました。

学芸員講座+キュレータートーク①

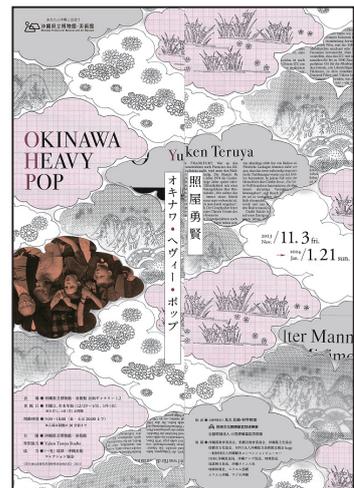
当美術館では、学芸員が普段の仕事から知り得た成果を発表するために、学芸員講座を開催している。内容は、学芸員が企画した展覧会作品の見どころ紹介や、修復に関することなどさまざまだが、学芸員にとって専門家としての責任を再確認し、来館者が知りたいことや求めているものに目を向ける大切な機会である。

また、キュレータートークでは、展覧会を企画した担当学芸員が、作家や作品、展示に関する意図、また開催するにあたり進めてきた調査・研究の成果を発表している。参加者が、学芸員の話を聞くことにより「美術作品」への関心を高め、より作品理解を深めることができる。また学芸員にとっては、観覧者に展覧会がどう伝わったかを知る重要な機会となり、今後へ向けての情報収集となる。

回	期日	曜日	講座名	担当
1	12月23日	土	「照屋勇賢 OKINAWA HEAVY POP」学芸員講座+キュレータートーク	大城さゆり
2	2月10日	土	「大城皓也作品修復報告展」学芸員講座+キュレータートーク	梶原正史
3	2月17日	土	「沖縄美術の流れ」中・高校生向けギャラリーツアー	玉城早苗



●大城さゆり 学芸員



アーティストトーク・ギャラリートーク①

アーティストトークやギャラリートークは、作家自身や作家とゆかりがある、あるいは研究している方から話しを聞く機会である。作家自身から作品、制作に関する思いを直接伺ったり、ゆかりがある方から作家の人柄や思想、歩んできた人生、客観的な事実や制作スタイル、モチーフの変遷などについて解説頂くことで、新たな気付きやより深い理解に繋がっていくといえる。



●翁長直樹氏・照屋勇賢氏

【対談 照屋勇賢（アーティスト）×翁長直樹（沖縄県立博物館・美術館 元美術館副館長）】

南風原町出身のアーティスト・照屋勇賢氏（1973～）はベルリン（ドイツ）を拠点に精力的に制作活動を始め、その作品は国内外で広く紹介されてきた。企画展「照屋勇賢 OKINAWA HEAVY POP」開催にあたり、照屋勇賢氏の制作と足跡について理解を深めることを目的に、照屋氏と高校時代の恩師・翁長直樹氏が、これまでの作品について語り合う、約 60 分間の対談映像を公開した。表現を楽しむ原点となった幼少期のエピソードから、ベルリンに拠点を移した現在に至るまで、親交の深い二人ならではの対談となった。映像は YouTube で公開し、会期中はエントランスモニターにて上映した。（大城さゆり）

【収録日：2023年8月21日（月） 場所：沖縄県立博物館・美術館講堂、

YouTube 公開：2023年11月29日（水） 視聴数：465回（2024年2月8日時点）】

アーティストトーク・ギャラリートーク②

【照屋勇賢アーティストトーク】

展覧会初日の11月3日9時30分より開会式を行い、テープカットならぬ「風船リボンカット」を行って、作品《直線に並ばない子は悪い子、美しい子》を完成させることで、開幕とした。即興で照屋勇賢氏が直線ライン上に作品タイトルを記入するパフォーマンスも行った。

開会式後、作家本人によるギャラリートークを開催。Zone1からZone5に分かれた展示を順番に回り、約一時間に渡って制作背景にある歴史や出来事を含め、作品のテーマや素材について詳細に語っていただいた。東京の大学で美術を専門的に学び、ニューヨーク、ベルリンと拠点を移して制作してきた体験と、照屋氏のアイデアの源泉について知る重要な機会となった。(大城さゆり)

【日時：2023年11月3日（金）10:00~11:00 参加人数：87人】



●開会式とアーティストトークの様子

「照屋勇賢 OKINAWA HEAVY POP」 舞踊公演＋クロストーク①

本展は美術の枠をひろげていく意図を含め、関連催事に舞踊公演を取り入れた。展覧会では、絵画的に展示している紅型作品を実際に着て、踊る姿を見ることは展示室とは違った見方を得られたのではないと言える。

踊り手の宮城茂雄氏は、藍型で染めた《返し風》にあわせ、最初の演目に別名月見踊りとも言われる「瓦屋(カラヤー)」を選んだ理由を述べ、仲嶺絵里奈氏は藍型の技法から鎮魂の踊りに見えた印象を述べた。照屋勇賢氏は既存の《返し風》とは違った本作について「昼と夜を表現」したと制作意図を語った。宮城氏は、照屋氏が紅型を現代美術として扱うことについて、古くから続く踊りを現代に自分が踊ることとの類似点を見出し、仲嶺氏も以前照屋氏の作品を着て踊った経験について話した。

トークの第二部では、司会を含め、県内唯一の芸術コースのある開邦高校の卒業生という共通項から現在沖縄のアートシーンに関わるそれぞれの立場で意見を交わした。(町田恵美)

【日時：2023年11月10日(金) 19:00~21:00 参加人数：129人】



●大城さゆり学芸員・宮城茂雄氏・照屋勇賢氏・仲嶺絵里奈氏



●舞踊の様子

「照屋勇賢 OKINAWA HEAVY POP」 舞踊公演＋クロストーク②



●宮城茂雄氏・大城さゆり学芸員・照屋勇賢氏・知念ウシ氏



●舞踊の様子



●エントランスホールで同時中継を楽しむ参加者

二回目となる今回は衣裳の順番を変え、華やかな《遥か遠くからのパレード》を着て、新年をめでの気持ち（嘉例）で幕開けをした。宮城茂雄氏は、古典舞踊を受け継ぐ身として、自身も紅型に描かれたパレードの一員になったような想いがしたと話し、過去と現在をつなぐ役割を伝えた。知念ウシ氏は、照屋作品のインスピレーションにもなっている、カマドウくわー小たちの集いについて話した。

司会からの「沖縄の文化を表現すること」への問いに対し、知念氏は「自分と文化の距離感を捉え、奪われた琉球国を取り戻しながら再生したい」と述べ、照屋勇賢氏は、アイデンティティの葛藤がありながらも「価値観の交換をし、消費と上手に付き合っていく」といった制作姿勢を語った。また紅型の作品《裕仁》について疑問視する知念氏のコメントを受け、照屋氏は「権力者を描くことで、権力をコントロールする」と応答しつつ、今後の課題としたいと話した。質疑応答含め、活発な議論が行われた。（町田恵美）

【日時：2024年1月13日（土）16：00～18：00 参加人数：178人】

美術館ミュージアムツアー

普段見ることのできない美術館の裏側への案内と、コレクションギャラリーの鑑賞を取り入れたツアー。各担当の学芸員と当館副館長が、美術館の役割や学芸員の仕事を解説する。特に修復室で行う、作品修復の説明は、参加者の多くの関心を集めている。

- ①内 容：美術館の裏側を紹介し、コレクションギャラリーを案内する。
- ②実 施：年5回 土曜日 10：30～12：00
- ③定 員：12人



●大城さゆり 学芸員(調査研究)



●梶原正史 学芸員(保存修復)



●大川 剛 副館長(展示公開)

【学芸員の仕事を伝えていくために】

学芸員が行うミュージアムツアーの利点は、私たちが日々行っている通常業務を紹介できる点である。展示、保存、普及、収集とそれぞれに独立した業務のようでありながらも、相互に補完しあう関係であるということ。また、バックヤードにて施設や設備の紹介をすることで、いかに美術館の作品が守られてきたのかを知るきっかけにもなる。大きくいってしまうと、美術館の役割と言い換えていかもしれない日々の業務を、理解していただく工夫を担当の学芸員それぞれが考えている。

また、学芸員と一緒にバックヤードを歩くので、自然と距離も近くなり、質問などの受け答えもその場でできる。特に中学生や高校生の場合、学芸員講座など少し堅い場面では、質問もしづらい雰囲気もあると思うので、とても良い機会だと感じている。バックヤードツアーが研究だけでなく、学芸員という職業に興味を持つきっかけになれば幸いである。(梶原正史)

慰霊の日関連催事

沖縄戦の体験者も高齢となり、私たちの身近にも悲惨な地上戦について語ってくれる人が少なくなってきた。学校現場でも年々、沖縄戦を主とした「平和教育」を実践することが難しくなっているのではないだろうか。当館では2017年より、博物館・美術館連携事業として慰霊の日関連催事を行っている。戦争の愚かさや命の大切さを絵本の読み聞かせを通して伝え、あらためて平和について考える機会とすることを目的としている。

「おきみゅーで平和について考えよう！」

【日 時】 展示期間 令和5年6月6日（火）～6月25日（日）、8月29日（火）～9月10日（日）

読み聞かせ催事 令和5年6月17日（土）14:00～15:00

【会 場】 沖縄県立博物館・美術館 1階 エントランス

【講 師】 普久原律子氏、安次嶺恵子氏（美術館ボランティア）

【参加者】 23人

【内 容】 博物館・美術館教育普及連携催事で、館内1FエントランスにTVモニターを設置し、平和関連の絵本の読み聞かせ映像の上映と、沖縄県立図書館協力のもと本の紹介も行った。

また、6月17日（土）に、普久原律子氏と安次嶺恵子氏に実際に読み聞かせを行って頂いた。



●展示の様子

無料

**「おきみゅーで平和について考えよう！」
えほん読み聞かせ**

6月23日（金）の慰霊の日を前に、おきみゅーでは絵本の読み聞かせを行います。少子化が進んだ戦争の記憶を担った『ケイ』命がおしえてくれたもの つしま丸・沖縄戦。戦って平和になる。本館が実施していることを見守りながら、戦争を学んだ人から1914年のクリスマス休戦』の2冊をご紹介します。物語を通して平和について考えをきっかけになれば幸いです。どうぞお気軽にご参加ください。

『ケイ』命がおしえてくれたもの
つしま丸・沖縄戦

戦争をやめた人たち
1914年のクリスマス休戦

2023. 6.17 (土)

14:00～15:00
(受付 13:30)

講師 普久原律子さん 安次嶺恵子さん
会場 エントランスホール
予約受付 (自由参加)
TEL 941-8200
〒901-8201 沖縄県那覇市美らまち3-1-1 博物館2階215号

作品 『ケイ』命がおしえてくれたもの つしま丸・沖縄戦
金城明美 文・絵
『戦争をやめた人たち 1914年のクリスマス休戦』
鈴木まもる 文・絵

おたのしみ・読書会 読書会 読書会 (各20名程度)
【お申し込み】 9月1日 (9月10日締切) 9月10日



●読み聞かせの様子



美術館・学校支援プログラム

沖縄県立博物館・美術館 「美術館・学校支援プログラム」



●「美術館 学校支援プログラム」の内容

1. 鑑賞支援プログラム（小・中・高・特別支援学校）：美術館にて
2. 美術館出前講座：学校にて
3. 教育普及キットの貸し出し：学校へ貸し出し
4. 小・中・高校生の職場体験や、先生方の研究・研修会の受け入れ：美術館にて
5. 心の教室・適応指導教室等と連携し、児童・生徒の居場所づくりの提供：美術館にて

1. 鑑賞支援プログラム（学校の要望等に応えながら、学校と美術館でプログラムを作る）

- 学校・学級等で申し込みいただいた団体に、鑑賞ボランティアによる「対話による鑑賞」を行う。
- 社会科・総合学習（平和教育等）の位置づけで、作品や展示資料から沖縄を知る手がかりとして当館を活用する。
- キャリア教育の側面から、美術館の役割や仕事の内容について教育普及担当学芸員が説明する。



対話による鑑賞の様子

※「鑑賞支援プログラム」の細かい流れについては、学校側との調整になります。
 申込は、当館のwebサイトよりご確認ください
<https://okimu.jp> もしくは <https://okimu.jp/education/program/>



ティーチャーズキットを使った授業の様子

【お問合せ】

沖縄県立博物館・美術館（美術館班）
 主任学芸員 教育普及担当 玉城早苗
 TEL:098-851-5402（美術館直通）
 FAX:098-941-3730
 MAIL:m8-016@museums.pref.okinawa.jp

2. 美術館出前講座（教育普及担当学芸員が学校へ行き授業を行う）

- 教育普及担当の学芸員が、美術館の役割や学芸員の仕事、来館時の鑑賞マナーについて解説。
- ティーチャーズキット（※1）、アートカード（※2）を使用し、鑑賞授業のレクチャーや授業の支援を行う。

3. ティーチャーズキットの貸し出し

- ティーチャーズキット（※1）、アートカード（※2）、実物大の複製画（レプリカ）の貸し出し。

4. 小・中・高校生の職場体験や、先生方の研究・研修会の受け入れ

- 収蔵作品の鑑賞や当館の教育普及プログラムの紹介、バックヤードの見学が体験できる。

5. 心の教室・適応指導教室等と連携し、児童・生徒の居場所づくりの提供

- 学校や各関係機関と連携し、児童・生徒の居場所づくりの提供を行う。



アートカード体験の様子



バックヤード見学の様子



アートカード

※1 ティーチャーズキット：作品を複製したパネル（解説CD含む）

※2 アートカード：美術館収蔵作品の中から厳選した60作品をプリントしたカード



鑑賞支援プログラム①

「作品をどうみたらよいかわからない」鑑賞の方法について、よく聞かれる言葉である。美術館では、その問いに答える様々なプログラムがある。当館では、鑑賞者が自分のペースで展示を見る鑑賞方法と、学芸員やボランティアのサポートによる「対話による鑑賞」がある。1人で見ただけでは見えてこなかったことが、対話を通すことによってより深い鑑賞体験をすることにつながっていく。児童・生徒の美術に関する知識・理解をサポートする目的で、学校と美術館が連携して行うのが、当館の鑑賞支援プログラムである。

前年度（令和4年度）、鑑賞支援プログラムを実施した学校団体は12校で、そのうち出前授業を実施した学校は1校も無かった。しかし、今年度（令和5年度）は、鑑賞支援プログラムを実施した学校団体は15校で、そのうち出前授業の後に来館した学校は4校、出前授業のみの学校も1校あった。

	来館日	学校名	学年	参加人数
1	4月25日（火）	岡山市立山南学園・中等部	2年	10人
2	9月8日（金）	那覇市立城東小学校（出前授業）	6年	80人
3	9月15日（金）	那覇市立城東小学校	6年	76人
4	9月26日（火）	沖縄市立比屋根小学校	1年	125人
5	9月27日（水）	糸満市立糸満小学校	4年	91人
6	10月25日（水）	読谷村立古堅南小学校	4年	99人
7	11月9日（木）	うるま市立南原小学校	5年	49人
8	12月13日（水）	沖縄県立沖縄ろう学校・中学部（出前授業）	1～3年	7人
9	12月14日（木）	沖縄県立浦添工業高等学校	1年	78人
10	12月15日（金）	八重瀬町立東風平小学校（出前授業）	5年	187人
11	12月20日（水）	沖縄県立石川高等学校	2年	4人
12	12月22日（金）	沖縄県立沖縄ろう学校・中学部	1～3年	15人
13	1月16日（火）	沖縄県立那覇みらい支援学校・小学部（出前授業）	6年	8人
14	1月17日（水）	沖縄県立那覇みらい支援学校・小学部	6年	14人
15	1月18日（木）	八重瀬町立東風平小学校	5年	172人
16	1月18日（木）	沖縄県立開邦高等学校	1・3年	21人
17	2月1日（木）	金武町立中川小学校	6年	20人
18	2月20日（火）	八重瀬町立新城小学校（出前授業）	5年	55人
19	3月5日（火）	恩納村立安富祖小学校	5年	15人



●美術館について講話（出前授業）



●アートカードで学ぼう（出前授業）

鑑賞支援プログラム②



●美術館について講話



●美術館のルールやマナーについて



●ボランティアによる鑑賞ツアーの様子①



●ボランティアによる鑑賞ツアーの様子②



●自由鑑賞の様子



●作品制作の様子



●バックヤード見学の様子①



●バックヤード見学の様子②

児童・生徒の声

●那覇市立城東小学校6年生

那覇市立城東小学校 6年生

美術館・出前授業

★振り返りシート★

城東小 6年 姓 名前

(9)月(8)日(金) 第2・3時間

★本日の出前授業の内容

①美術館の役割や使命の内容について
②「ニシムイ芸術祭」について
③アートカードで学ぶ!

★出前授業の感想、思ったこと、感じたことを書きましょう。

今日は出前授業を受けてアートカードの制作をしました。アートカードの制作は、自分の考えを表現することができ、とても楽しかったです。また、美術館の役割や使命について学びました。アートカードの制作を通して、自分の考えを表現することができ、とても楽しかったです。また、美術館の役割や使命について学びました。

今日の授業は、とても楽しかったです。 楽しかったです。 学びが深かったです。

●八重瀬町立東風平小学校5年生

八重瀬町立東風平小学校 5年生

美術館・出前授業

★振り返りシート★

12月16日(金) 第2・3時間

東風平小学校 5年 組 番 名前

★本日の出前授業の内容

①美術館の役割や使命の内容について
②「ニシムイ芸術祭」について
③アートカードで学ぶ!

★出前授業の感想、思ったこと、感じたことを書きましょう。

今日は、今日、美術館に出前授業を受けて、絵画や美術館についていろいろ知りました。美術館は、絵画や彫刻などがたくさんあり、とても面白かったです。また、美術館の役割や使命について学びました。アートカードの制作を通して、自分の考えを表現することができ、とても楽しかったです。また、美術館の役割や使命について学びました。

今日の授業は、とても楽しかったです。 楽しかったです。 学びが深かったです。

●沖縄県立沖縄ろう学校中学部3年生

沖縄県立沖縄ろう学校 中学部 3年生

美術館へいこう!

3年 姓 名前

① 日時:(12)月(22)日(金) 曜日
② 見学した感想を書きましょう。

美術館で、いろいろな絵画や彫刻を見ました。とても面白かったです。また、美術館の役割や使命について学びました。アートカードの制作を通して、自分の考えを表現することができ、とても楽しかったです。また、美術館の役割や使命について学びました。

★美術館鑑賞の振り返り★

1. しっかり絵をみるのができた	⑤・3・2・1
2. 絵をみてしっかり考えるのができた	4・③・2・1
3. 自分の意見を言うのができた	4・③・2・1
4. 友だちの意見をしっかりと聞くのができた	4・③・2・1
5. 友だちの意見を聞いて自分の考えを深めるのができた	④・3・2・1
6. 美術館での鑑賞をまたやりたい	4・③・2・1

●糸満市立糸満小学校4年生

糸満市立糸満小学校 4年生

美術館の作品を鑑賞しよう

★振り返りシート★

4年 姓 名前

① 日時:(9)月(27)日(水) 曜日
② 気に入った好きな作品、気に入った作品はどの作品ですか? 作品名と著者に自由を記して下さい。

作品: 神遊び

③ 気に入った理由

いろいろな人がかかるとか、いろいろな色が入っているのが好きです。また、いろいろな色が入っているのが好きです。

④ 出前授業の感想、思ったこと、感じたことを書きましょう。

わたしは神遊びが気に入りました。いろいろな色が入っているのが好きです。また、いろいろな色が入っているのが好きです。

今日の授業は、とても楽しかったです。 楽しかったです。 学びが深かったです。

●沖縄県立浦添工業高等学校1年生

沖縄県立美術館にあまり来ることが無かったため、様々な体験をすることができた。美術館の職員さんは、作品を第一に考えていて、バックヤードでも傷つけないように、いい状態を保てるようにと、色々工夫されていると、すごく責任のある仕事だと思った。でも、たくさん美術館と出会える素敵な仕事でもあると思った。美術作品には説明がないものも多く、自分でどんな絵なのか考えなければならなかったのだが、ひとつの作品としっかり向き合えたため、いい経験となった。友達とひとつの作品について話しても、見方や解釈の仕方が全然違うことが楽しめた。デザイン科だから、様々な絵と向き合う時間が多いと思うので、もっと美術館に来て、色んな作品を見て学んで、自分の作品にもつなげられるようにしたい。

ボランティア活動

当館の美術館ボランティアスタッフは、学校団体に向けた鑑賞ツアーをサポートするガイドボランティアと、美術館関連書籍・新聞などを整理する資料整理ボランティア、ワークショップをサポートするワークショップボランティアの3つのグループに分かれ、それぞれの特技を生かし活動している。今年度、ガイドボランティアは、新規ボランティアの養成講座を実施し、新たに10名以上が活動を開始した。また、学校対応では、特別支援学校やろう学校の児童、生徒と鑑賞ツアーを行うことができた。

ボランティア研修会

回数	実施日	プログラム	内容
第1回	5月17日	活動説明会と研修会	職員紹介・活動計画と事務手続き等説明、ボランティア養成講座
第2回	5月31日	研修会	アートカードの使い方と美術館の役割について
第3回	6月21日	館外研修	浦添市美術館研修会
第4回	8月9日	研修会	学校団体の来館を想定した対話型鑑賞の研修会
第5回	9月6日	研修会	学校団体の来館を想定した対話型鑑賞の研修会
第6回	10月4日	研修会	学校団体の来館を想定した対話型鑑賞の研修会
第7回	12月20日	展示解説	照屋勇賢展の展示解説と沖縄ろう学校来館に向けた事前準備
第8回	2月7日	研修会	対話型鑑賞実践と今年度の振り返り、更新書類の説明

ガイドボランティア対応 鑑賞ツアー

回数	実施日	学校名	参加人数(人)
第1回	9月15日	那覇市立城東小学校	76人
第2回	9月27日	糸満市立糸満小学校	91人
第3回	10月25日	読谷村立古堅南小学校	99人
第4回	12月22日	沖縄県立沖縄ろう学校・中学部	15人
第5回	1月17日	沖縄県立那覇みらい支援学校・小学部6年生	14人



●養成講座の様子



●団体対応の様子①



●団体対応の様子②

教職員等、研修の受け入れ

教育委員会や研究所、学校等からの要請を受け、「校内研修」や「中堅教諭等資質向上研修」等の受け入れを行っている。今年度は、那覇市内の小学校教諭5人と県立名護高等学校教諭1人の「中堅教諭等資質向上研修」を実施した。また、那覇教育事務所主催の県民カレッジ「沖縄県立博物館・美術館バックヤードツアー」も、昨年度に引き続き開催することができた。

さらに、沖縄県造形教育連盟と毎年共催で開催している「教員向け講座」を予定していたが、台風6号の影響で中止となった。

1 令和5年度 中堅教諭等資質向上研修「社会体験研修」

(1) 期間：令和5年8月3日（木）～8月4日（金） 2日間

※美術館班は8月4日（金）バックヤード+コレクション展解説など

(2) 研修受入者：那覇市内小学校教諭 5人

2 令和5年度 県立高等学校 中堅教諭資質向上研修

(1) 期間：令和5年8月16日（水）～8月18日（金）3日間 ※美術館班は16日（水）実施

(2) 研修受入者：沖縄県立名護高等学校教諭 1人

3 令和5年度 県民カレッジ「沖縄県立博物館・美術館バックヤードツアー」

(1) 日程：令和5年8月10日（木）13：30～16：00

(2) 受入者：24人



●美術館の役割について講話



●バックヤード見学



●作品鑑賞



●アートカードで学ぼう

美術館 職場体験

職場体験とは、生徒が一般企業などで働く人たちとコミュニケーションを取りながら、実際に仕事を体験する学習活動である。当館では、団体鑑賞プログラムの対応、資料整理など学芸員のサポート業務と、展覧会会場の交流員やもぎり、ミュージアムショップでの接客など、来館者の対応にも挑戦する。また、当館が取り組んでいる IPM（総合的有害生物管理）について、文化財 IPM コーディネーターの資格を有した職員が講義を行い、文化財保護の重要性を学ぶ機会を提供している。今年度は、2校の高等学校、7人の生徒を受け入れ、それぞれ3日間の職場体験を行った。



●美術館について講話



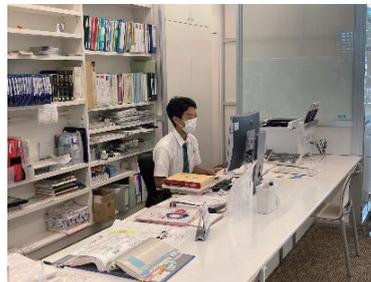
●バックヤードの見学



●資料整理



●もぎり業務



●情報センター



●IPM 講習①



●IPM 講習②



●ふれあい体験室



●ミュージアムショップ

学芸員実習①

美術館では、開館3年目の2009年から学芸員実習の受け入れを行っている。受け入れにあたっては、例年、学芸員資格養成課程を有する県内の大学を優先し、人員枠にゆとりがある場合、県外大学に在籍する県出身の学生を優先的に受け入れ、定員は10人以内としている。時期は8月中旬から2週間で、美術館学芸員全員でそれぞれの専門分野の講義を行っている。前年度は、新型コロナウイルスの影響により、一部内容の変更等もあったが、今年度は、沖縄県立芸術大学9人、神戸大学1人、合計10人の学生を受け入れ、予定通り2週間実施することができた。

【美術館学芸員実習カリキュラム】

実施期間：令和5年8月14日（月）～8月25日（金）

		実習内容（午前）	実習内容（午後）
8月14日	月	開講式、初エッセイ、美術館業務の考え方と実際	美術館の役割や仕事について、美術館施設案内等
15日	火	調査・研究の概要、資料収集事業の概要等	展覧会開催までの流れ、展示企画書等の作成演習
16日	水	教育普及事業Ⅰ、学校支援プログラム等	アートカード、対話による鑑賞の実践等
17日	木	「ニシムイ」について、博物館常設展の見学	「ニシムイ」フィールドワーク
18日	金	交流員の仕事体験（作品監視）+資料整理体験	各自、調査・課題研究を行う
21日	月	IPM講習、資料保存・修復の実際	展示作品の解説（修復した作品等を解説する）
22日	火	各自、調査・課題研究を行う	各自、調査・課題研究を行う
23日	水	各自、調査・課題研究を行う	各自、調査・課題研究を行う
24日	木	各自、調査・課題研究を行う	各自、調査・課題研究を行う
25日	金	共通課題研究の発表、閉講式	実習のまとめ→実習記録簿等の提出



●調査研究講座



●保存修復講座



●ニシムイ・フィールドワーク



●課題研究発表の様子

学芸員実習②

●課題研究テーマ（ニシムイの作家調査）

	大学名	課題研究テーマ
1	沖縄県立芸術大学	沖縄近代彫刻の源流 玉那覇 正吉
2	沖縄県立芸術大学	安谷屋 正義の制作について
3	沖縄県立芸術大学	大城 皓也 Oshiro koya 1911-1980
4	沖縄県立芸術大学	安谷屋 正義の抽象表現について
5	沖縄県立芸術大学	名渡山 愛順と沖縄
6	沖縄県立芸術大学	山元 恵一（作品とアトリエについて）
7	沖縄県立芸術大学	玉那覇 正吉の芸道
8	沖縄県立芸術大学	金城 安太郎について
9	沖縄県立芸術大学	美術家のかたわら教育者としても活躍した具志堅 以徳について
10	神戸大学	大城 皓也の描く沖縄

《実習生レポートより》

●保存修復について

資料保存・修復の分野について、日本画の大学院で学べるため以前から関心を持っていた。今回の講義を経て、興味が一層深まった。私は、生物と科学にも強く関心を寄せているため、それが美術と交わる分野であることからますます魅力を感じた。この仕事には、害虫の発生への対処や修復方法の考案などに、物事を多角的に捉え、筋道を立てて考える能力が求められることを痛感した。また昆虫の生態や薬品が環境や人に及ぼす影響など幅広い知識が必要で、さらにクーリ工業務で国外へ行ったり、作品や修復のことで海外の方と情報交換をすることもあるため、語学力も必要であり、たくさん勉強が必要な大変な仕事だとわかったが、同時に常に変化がある仕事で、やりがいがあり楽しそうだとも思った。私が専攻する日本画では、和紙や膠といった素材を使用するので、修復で同じような材料を使うことに興味を持った。特に膠の種類による特性について研究し、使い分けるところは同じで、親近感があり、また役立つ知識も得ることができた。修復専用の絵の具等、素材のことや紫外線やX線を使った分析などの話は面白く、興味が湧いた。さらに深く学びたいと思った。修復の方法について、伝統的な材料や手法を重んじるだけでなく、作業により適した道具を開発したり、他所で行われている手法を積極的に取り入れる柔軟さがあり、技術の進歩など未来を見据えた仕事であることに面白さを感じた。

●調査研究について

調査研究については、実際に作品に触れながら美術品調査票を記入し、実践を通して学ぶことができた。しかし、作品を見ても知識の乏しさから、素材も何もわからないことだらけで、なかなか筆が進まず、学芸員として作品を調査するにあたっては、様々な分野の作品について、また様々な国の文化や伝統について、予備知識を蓄えておく必要があると痛感した。美術館に勤務する学芸員の少なさにも驚いたが、それにしても1人でこなすべき仕事の量にはさらに驚いた。補助があっても、例えば展覧会のために収集した膨大な量の情報については、学芸員自ら読み込み、インプットしていかなければ、展示や解説に昇華することはできない。展覧会を行うにあたって、実際に開催されるまでの果てしないプロセスを経ながら、常に色々な仕事と平行して取り組んでいることを知り、学芸員として働くために必要なポテンシャルが、いかに高いのかを実感した。また、講義の中で展覧会が作られていく過程を見ながら、沖縄の美術家について、その裏側も含めて詳細を知ることができている。自身の知識の乏しさには、呆れるところではあるが、こうして、学芸員として働きながらも調査や研究を経て幅広い知見を得て、自分自身の頭の中のデータバンクも、充実させていくことができる仕事でもあるのだなと感じた。

OKINAWA アートワークショップ 2023 ①

沖縄県立博物館・美術館のアトリエには、充実した造形活動が出来るスペースがあり、様々な創造活動を体験することが出来る。2017年度より、沖縄の地域素材を生かした、子どもも大人も楽しめるワークショップを実施している。今年度は、『さあ行こう美術館へ！はじめの1歩を踏み出そう！』～観る楽しさ・描くおもしろさ・つくる喜びを感じよう～をテーマに、これまで通り沖縄の地域素材を生かした内容に加え、県内で活躍する若手作家をお招きし、ものづくりの楽しさを感じることで出来るワークショップを開催することができた。

また今年度は、「赤ちゃん和妈妈・パパのためのギャラリーツアー」を行うなど、新しいワークショップの開発にも挑戦した。

	内容	講師	日時	参加人数
1	スタンドグラスで オーナメント	greenish blue glass	4月29日(土) 9:30~12:00	10人
2	おきなわの木で作る 豆皿ワークショップ	あさと木漆工房(安里昌樹氏)	5月27日(土) 9:30~12:30	10人
3	つまみ細工 フローチ・ コサージュ・髪飾り	布と花(永崎綾之氏)	7月15日(土) 9:30~12:30	9人
4	身近なものを描こう ～スケッチ・デッサン～	よねだはるひこ氏(美術画家)	7月29日(土) 9:30~12:30	10人
5	漆喰シーサーづくりに挑戦!	山城富函氏・大城幸祐氏(現代の名工) 沖縄県琉球赤瓦漆喰施工協同組合の皆さん	10月7日(土) 8日(日) 10:00~15:00	15人
6	着なくなった服でつくる 裂き布マット	毛糸屋 amu(上地亜美氏)	11月19日(日) 9:30~12:30	3組 8人
7	赤ちゃん和妈妈・パパの ためのギャラリーツアー	大城さゆり(当館学芸員)	11月25日(土) 14:00~15:00	2組 6人
8	干支紅型でお正月支度	城紅型染工房 (山城祥子氏・吉濱 愛氏)	12月16日(土) 10:00~12:00	15人



●「スタンドグラスでオーナメント」

OKINAWA アートワークショップ 2023 ②



● 「スタンドグラスでオーナメント」



● 「おきなわの木で作る豆皿ワークショップ」



● 「つまみ細工 ブローチ・コサージュ・髪飾り」



OKINAWA アートワークショップ 2023
 「ごあけこう美術展へ「はじめての1歩を踏み出そう!」
 -「おあけこう美術展へ「はじめての1歩を踏み出そう!」
 -「おあけこう美術展へ「はじめての1歩を踏み出そう!」
 -「おあけこう美術展へ「はじめての1歩を踏み出そう!」

4.29 ± 「スタンドグラスでオーナメント」
 風、虹、雨の中からは様々なデザインを選び、スタンドグラスにデザインしたガラスならではの繊細さと厚み、そして手作りの温かみを感じてください。
 ※大人にも楽しめる楽しい、夏を告げる1つの美術展となります。

講 師 greenish blue glass
 時 間 9:30~12:00
 会 場 県民アトリエ、こどもアトリエ
 対 象 18才以上
 定 員 15名
 参加費 2,500円
 受 付 4/1(土)から電話、来場(9時前)にて受付

申込は5/27(土)
 「おきなわの木で作る豆皿ワークショップ」
 安室水産工務 (安室昌博さん)

お問い合わせはこちら

※新型コロナウイルス感染症拡大防止にご協力ください。
 ※イベントでは、マスクの着用を推奨いたします。
 ※感染症の予防や拡大防止のため、参加者同士の距離を十分に確保し、咳やくしゃみはマスクで抑え、手洗いを徹底していただきます。
 ※会場は、換気設備が完備されています。

OKINAWA アートワークショップ 2023
 「ごあけこう美術展へ「はじめての1歩を踏み出そう!」
 -「おあけこう美術展へ「はじめての1歩を踏み出そう!」
 -「おあけこう美術展へ「はじめての1歩を踏み出そう!」
 -「おあけこう美術展へ「はじめての1歩を踏み出そう!」

5.27 ± 「おきなわの木で作る豆皿ワークショップ」
 豆皿の由来を知り、手のひらサイズの豆皿作りを体験し、制作していただきます。
 ※制作できる豆皿の数は、じっくり作っていきます。

講 師 赤木と木津工務 (安室昌博さん)
 時 間 9:30~12:30(開場9:15)
 会 場 県民アトリエ、こどもアトリエ
 対 象 小学生~大人
 定 員 15名
 参加費 3,500円
 受 付 4/27(木)から電話、来場(9時前)にて受付
 (定員に達し次第受付終了)

申込は5/27(土)
 「ごあけこう美術展へ「はじめての1歩を踏み出そう!」
 赤木と木津工務 (安室昌博さん)

お問い合わせはこちら

※新型コロナウイルス感染症拡大防止にご協力ください。
 ※イベントでは、マスクの着用を推奨いたします。
 ※感染症の予防や拡大防止のため、参加者同士の距離を十分に確保し、咳やくしゃみはマスクで抑え、手洗いを徹底していただきます。
 ※会場は、換気設備が完備されています。

OKINAWA アートワークショップ 2023
 「ごあけこう美術展へ「はじめての1歩を踏み出そう!」
 -「おあけこう美術展へ「はじめての1歩を踏み出そう!」
 -「おあけこう美術展へ「はじめての1歩を踏み出そう!」
 -「おあけこう美術展へ「はじめての1歩を踏み出そう!」

7.15 ± 「つまみ細工 ブローチ・コサージュ・髪飾り」
 ちりめんを使った華やかなつまみ細工、高級です。これ自分で作り出そう! ブローチにもコサージュにも使える高級で仕上げの、いろいろなシーンで活躍するアクセサリーが作れます。
 ※手際が、色、糸、糸、黄色糸3つの色から作りだせるつまみ細工が作れます。

講 師 赤木と木津工務 (安室昌博さん)
 時 間 9:30~12:30(開場9:15)
 会 場 県民アトリエ、こどもアトリエ
 対 象 18才以上
 定 員 15名(黄色5名ずつ)
 参加費 3,000円
 受 付 4/15(金)から電話、来場(9時前)にて受付 (定員に達し次第受付終了)
 ※申込(5/1~7/8)は、申し込みの受付は終了です。
 ※参加費は、お申し込みの際に必ずお振込みください。
 ※参加費は、お申し込みの際に必ずお振込みください。

申込は7/8(土)
 「ごあけこう美術展へ「はじめての1歩を踏み出そう!」
 赤木と木津工務 (安室昌博さん)

お問い合わせはこちら

※新型コロナウイルス感染症拡大防止にご協力ください。
 ※イベントでは、マスクの着用を推奨いたします。
 ※感染症の予防や拡大防止のため、参加者同士の距離を十分に確保し、咳やくしゃみはマスクで抑え、手洗いを徹底していただきます。
 ※会場は、換気設備が完備されています。

OKINAWA アートワークショップ 2023 ④



●「赤ちゃんとママ・パパのためのギャラリーツアー」



●「干支紅型でお正月支度」

夏休み！こどもフェスタ 2023 ①

毎年恒例となっている夏休み！こどもフェスタは、未就学児から中学生までの参加があり、それぞれの講座を通して、子どもたちに造形的な技能及び表現力を身につけさせ、子どもたちと美術館との関わりを深めることを目的としている。今年度は、台風6号の影響で実施日を1週間延期しての開催となった。

日程	午前	午後
	9:30 ~ 11:00	14:00 ~ 16:30
8月12日 (土)	<ul style="list-style-type: none"> ●「形さがし×色あそび」 ① 内容：カサカサ、くねくね、身近な植物を使って色んな形を発見しよう。親子で楽しめるカラフルなアート体験！！ ② 講師：Confetti Project (大中原千陽氏、本村佳奈子氏) ③ 対象：未就学児と保護者(兄弟も参加可) ④ 参加者：10組 15人 	<ul style="list-style-type: none"> ●「琉球王国にタイムスリップ！あなたも琉球絵師！？」 ① 内容：琉球の絵師が使っていた絵具で、絵を描いてみよう！ ② 講師：喜屋武千恵氏(画家) 篠原あかね(博物館美術工芸担当) ③ 対象：小1~中3 ④ 参加者：8人
	9:30 ~ 12:30	14:00 ~ 17:00
8月13日 (日)	<ul style="list-style-type: none"> ●「ミニ漆喰シーサーに挑戦！」 ① 内容：首里城の瓦を使って、ミニ漆喰シーサーを作ってみよう！ ② 講師：沖縄県琉球赤瓦漆喰施工協同組合 (田端 忠氏、堀切元気氏) ③ 対象：小1~中3 (小3以下は保護者同伴) ④ 参加者：16人 	<ul style="list-style-type: none"> ●「夏の定番！島ぞうりにオリジナルデザインを彫ろう！」 ① 内容：沖縄ではおなじみの島ぞうり！自分だけのデザインを考えて、オリジナルの島ぞうりをつくってみよう！ ② 講師：玉城早苗(美術館学芸員・教育普及担当) 保久村智恵(美ら島財団・教育普及担当) ③ 対象：小5~中3 ④ 参加者：5人



夏休み！こどもフェスタ 2023 ②



●「形さがし×色あそび」



●「琉球王国にタイムスリップ！あなたも琉球絵師！？」

夏休み！こどもフェスタ 2023 ③



● 「ミニ漆喰シーサーに挑戦！」



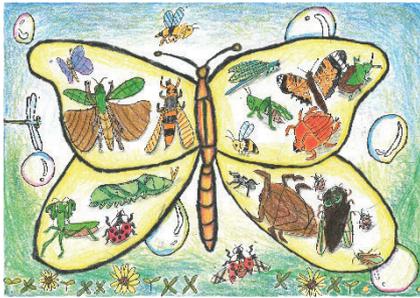
● 「夏の定番！島ぞうりにオリジナルデザインを彫ろう！」

アートコンクール

2017年より、県内の児童・生徒にアートコンクールへの参加の機会を提供し、親しめる美術館づくりを目指している。今年度は、テーマを「好き」として募集したところ、985点の素晴らしい作品が集まった。作品の中から特に色彩豊かで独創的な作品が入賞し、11月3日に表彰式を挙行了。当日は、入賞者のご家族にもご列席いただき、晴れやかな表彰式となった。

※入賞作品展 10月24日(火)～11月12日(日)

【最優秀作品】



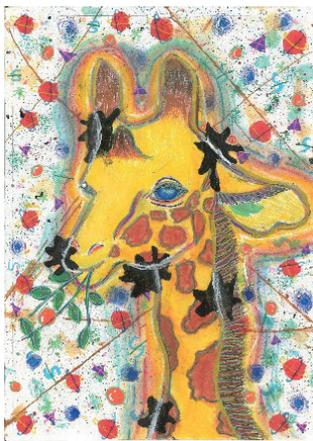
■小学校1・2・3年生の部

上里優護 (沖縄市立高原小2年生)



■中学校の部

嘉味田 優 (那覇市立鏡原中3年生)



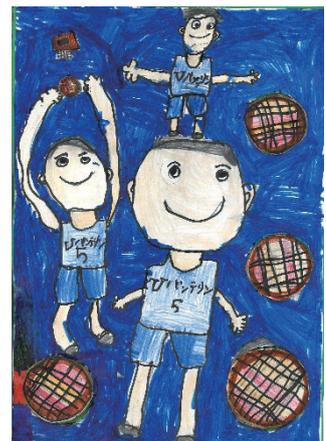
■小学校4・5・6年生の部

池田柚茉 (豊見城市立長嶺小6年生)



■高校の部

宮平愛香 (沖縄県立小祿高校2年生)



■特別支援の部

与那一樹
(糸満市立糸満南小・特別支援学級3年生)



●表彰式の様子



アートコンクール (審査講評)

応募総数985点

今年のテーマは「好き」。日常を楽しく描いた作品もあれば、好きな動物や好きな物、好きな趣味など、描いた作者の皆さんの「好き」という思いが画面から溢れてくるような多くの素敵な作品が届きました。画材も様々で、鉛筆やペン、絵の具や色鉛筆、紙や毛糸を画面に貼り付けたコラージュで表現したり、デジタル画も多く見られ、それぞれの画材の特性を生かしながら画面いっぱいに「好き」が表現されていました。また、審査員の先生方が審査をしながら、思わず笑顔を浮かべている楽しそうな様子がとても印象的でした。今年は985点もの応募があり、毎年、回を重ねるごとに出品者の技術力の向上、作品の内容の深まりを感じます。2020年から続くコロナ禍で、「好き」なことをやったり、触れたりすることが制限されてしまう日々が続きました。今年度に入り、やっと、様々な制約から解放されつつあり、日常が少しずつ戻ってきたように感じます。

「好き」というテーマと向き合った時、児童・生徒の皆さんが、好きなことで得る楽しさ、好きなことを好きと感じることのできる喜び、そして、その好きを作品として「表現」できる平和な日常に感謝することのできる「気づき」を得る機会となっていたら幸いです。

今年もコンクールが開催できたことは、応募して頂いた児童・生徒の皆さんはもちろんのこと、ご家族の皆様、学校の先生方、並びに各団体の関係者の皆様のお力添えのおかげだと、心より感謝申し上げます。当館は、児童・生徒の皆さんが自由に描き、表現し、発表できる機会を今後も継続し行っていきますので、ぜひ、来年も応募して頂きますよう宜しくお願い申し上げます。

(美術館 教育普及担当:玉城早苗)

【小学校の部】(応募数 288 点)

うるま市立田場小学校 副校長 豊田 達雄 先生

今回のテーマは『好きな〇〇』ということで、自分自身が大好きな対象を A4 サイズの画面にのびのびと描き「大好き」という思いが画面からあふれていました。テーマも多種多様で、水彩やパスなどを主に多様な描画材や技法を用いた作品の他、デザイン的な作品や画像コラージュなどもあり、子供の数だけ「好き」があるということを実感するとともに、子供たちの豊かな感性と躍動感のある表現力に驚かされました。これからも自由な表現を楽しんで下さい。

【中学校の部】(応募数 279 点)

宜野湾市立真志喜中学校 教諭 上原 秀樹 先生

テーマ「好き」について、日常の一コマを切り取った作品や趣味の世界、挑戦したいことなど、作者の世界観が画面いっぱいに広がっており魅力ある作品となっていました。また、細部へのこだわりのみならず、絵の具や色鉛筆、デジタル表現等、画材の持つ特性を理解しながら効果的に画面に表すことで作品の完成度も高まっていました。これからも「好きこそ物の上手なれ」で表現に挑戦してほしいです。

【高校の部】(応募数 284 点)

沖縄県立浦添工業高等学校 教諭 前原 有希子 先生

高校生ならではの「好き」が画面から溢れ、描くことへの情熱が伝わる見ごたえのある作品が揃い、丁寧に細部までこだわった技術の高さにも驚きました。絵の中のストーリーに、見る人を引き込む独自の画面構成、様々な視点、多様な表現方法で作者の世界観が見事に表現されていました。デジタル画の力作も見られ、表現方法の幅広い可能性を感じました。これからも創作を楽しみ、自分らしさを追求した新たな作品に挑戦してください。

【特別支援の部】(応募数 134 点)

沖縄県立那覇みらい支援学校 教諭 中曽根 祐子 先生

今回のテーマは「好き」。みなさんが大好きなものをイメージしながら、楽しく制作している姿が思い浮かびました。好きなこと、人、生き物、乗り物などそれぞれが心の中で大切にしている「好き」をのびのびと表現していました。様々な画材を組み合わせて描いたり、貼ったり、にじませたりと技法の工夫も見られました。これからも「好き」という想いを大切にしながら、その想いを「表現」することを楽しんで欲しいと思います。

移動展 in 国頭村

沖縄県立博物館・美術館は、長い年月をかけて収集した多数の資料を収蔵している。移動展は、当館に足を運ぶことが難しい離島や遠隔地の方々にも、県民の財産である博物館・美術館の資料や作品を、楽しんでいただける場となっている。沖縄県の自然、歴史、文化の広域普及を図ると共に、美術作品を鑑賞したり、ワークショップで作品を制作したり等、美術に親しむ機会を提供することをも目的としている。昨年は、3年越しに渡嘉敷島での移動展が実現し、今年度（令和5年度）は、初の沖縄本島北部、国頭村での開催となり、国頭地区の皆さまに喜んで頂くことができた。

- 【体制】 主催：沖縄県立博物館・美術館、一般財団法人 沖縄美ら島財団、国頭村教育委員会
- 【実施地域】 国頭村
- 【会期／開場時間】 令和6年1月26日（金）～1月28日（日）／午前9時～午後5時
- 【会場】 国頭村村民ふれあいセンター
- 【展示内容】
- ①複製画《八重山風景》（大嶺政寛）、《Now・・・（1）》（川平恵造）、
「展覧会展示パネル」展覧会概要パネル等の展示
 - ②教育普及ワークショップ「針金で立体をつくろう！」
 - ③映画《吉屋チルー物語》（金城哲夫）上映



●開会式の様子



●展覧会場の様子



●ワークショップの様子



●映画上映会の様子

第14回 移動展 in 国頭村
1/26 1/27 1/28
国頭村民ふれあいセンター
9:00～17:00（入場無料）
1/26（金）～1/28（日）

移動展 in 国頭村 関連行事

- 「フクロアヒナ」 特別上映会を開催します。**
日 期 1/26（金）10:00～10:30（入場無料）
場 所 国頭村民ふれあいセンター
主 催 国頭村教育委員会
- 「ふるまい博士のふんぐらデザイン」**
日 期 1/26（金）11:00～11:30（入場無料）
1/27（土）11:00～11:30（入場無料）
1/28（日）11:00～11:30（入場無料）
場 所 国頭村民ふれあいセンター
主 催 国頭村教育委員会
- 「ふるまい博士のふんぐらデザイン」**
日 期 1/27（土）13:30～15:00（入場無料）
場 所 国頭村民ふれあいセンター
主 催 国頭村教育委員会
- 「ふるまい博士のふんぐらデザイン」**
日 期 1/28（日）13:30～15:00（入場無料）
場 所 国頭村民ふれあいセンター
主 催 国頭村教育委員会
- 「ふるまい博士のふんぐらデザイン」**
日 期 1/28（日）15:30～17:00（入場無料）
場 所 国頭村民ふれあいセンター
主 催 国頭村教育委員会

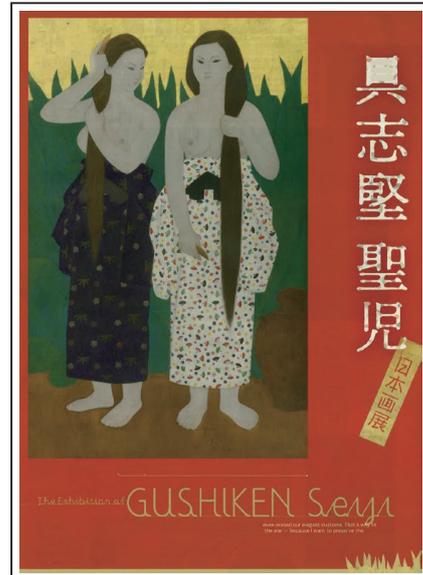
美術館コレクション展 「具志堅聖児 日本画展」・「沖縄美術の流れ」

令和4年度後期 会期：令和5年1月21日（土）～6月25日（日）

【具志堅聖児 日本画展】

本展は、当館が所蔵する具志堅聖児の作品 14 点を中心に展示する。その内訳は、1985 年 11 月 25 日に作家ご本人から、沖縄県立博物館（旧館）へご寄贈いただいた作品、20 点のうち 13 点と、さらに 1987 年に一般の方から寄贈された 1 点による。

沖縄県出身の具志堅は、東京で彫刻家・日本画家の山田真山に弟子入りを果たし、1940 年からは芸術院会員の伊東深水の弟子となる。1943 年、文展に初入選後、1945 年以降の日展でも出品を重ね、沖縄の人々の生活を描き続けた。「戦争は沖縄のすべてを奪ってしまいましたよ。あのみやびやかな風俗も姿を消した。ですから私は沖縄のかつての風俗や生活を残しておきたいと思って、戦後はそればかりを描いているんですよ。」との語りから、その心中には、郷里への恋慕をうかがい知ることができる。その画業を振り返り、具志堅聖児作品の魅力について紹介した。（豊見山 愛）



【沖縄美術の流れ】

沖縄には、本土とは異なる歴史や風土の中から生まれた独特な文化がある。沖縄の美術は、その中で育まれてきた。いつの時代も、そのおかれた立場や状況から多大な影響を受けてきた沖縄。

沖縄戦から戦後復興期を経て、さらに、復帰から現代に至るまでの様々な時代の変容は、沖縄の美術家とその作品にどのような影響を与えてきたのか。今回の「沖縄美術の流れ」は、戦前・戦後復興期・復帰後・現代と時代の変遷をたどり、さらに、沖縄系移民、沖縄の彫刻家にスポットを当てて紹介した。（玉城・梶原）



【展示内容】

- 第 1 章 戦前の沖縄美術 -1945
- 第 2 章 戦後復興期の沖縄美術 1945-1972
- 第 3 章 復帰後の沖縄美術 1972-1980 年代
- 第 4 章 沖縄系移民のアーティスト
- 第 5 章 1990 年代から現代の沖縄美術
- 第 6 章 沖縄の彫刻家たち

美術館コレクション展「大城皓也作品修復報告展」

令和5年度後期 会期：令和6年1月23日（火）～6月30日（日）

本展覧会は、沖縄の画家、大城皓也作品の展示会である。本展出品作品は、生前、大城のアトリエに保管されていた作品群の一部である。没後、アトリエの保存環境が徐々に悪化し、その作品群においては劣化が進む状態となった。その後当館に移動され、保管されている。当館収蔵の大城作品は100点を超えるが、そのほとんどが修復を必要としている。大城作品の展示とともに、美術館における修復作業の一端も展示し、修復をすることでどのような知見が得られたのかを紹介する。（梶原正史）

【関連催事】

□学芸員講座+キュレータートーク

【日 時】令和6年2月10日（土）14:00～15:30

【会 場】美術館講座室、コレクションギャラリー1

【講 師】梶原正史(展覧会担当学芸員)

【参加者】9人

【内 容】主に修復作業の詳細について講話を行い、コレクションギャラリー1にて、参加者の質問に答えながら展示解説を行った。



●講話の様子



●展示解説の様子



美術館コレクション展

「大和コレクション展 vol. 9 アートの愉しみ」

前期 会期：令和5年7月14日（金）～令和6年1月14日（日）

後期 会期：令和6年1月23日（火）～6月30日（日）

「大和コレクション」は、日本有数の現代美術コレクターである佐藤辰美氏により集められた作品群で、平成22年度に当館に寄託された。その内容は、世界的に評価の高い作家や、国内外の若手作家による平面、立体、写真、陶芸、インスタレーションなど多岐にわたる。

難しいと思われがちな現代美術だが、作者の投げかけた問いに耳を傾けると、新たな発見や思考が生まれてくるかもしれない。今回は、「大和コレクション」の中から、「アートの愉しみ」と題し、立体、絵画、写真を中心に紹介する。

（玉城・梶原・又吉・喜納）



●展示室の様子

美術館コレクション展「沖繩美術の流れ」

会期：令和5年7月14日（金）～令和6年6月30日（日）

沖縄には、その歴史や風土から育まれた独特な文化があり、沖縄の美術も時代や置かれた立場や状況に多大な影響を受けながら培われてきた。本展では、戦前、戦後復興、本土復帰後、沖縄系移民、そして現代美術に章を分け、沖縄の近現代の美術作品をその変遷とともに時系列に辿る。

美術家たちが、それぞれの時代をどのように捉え表現したか、県内外、海外で活躍する沖縄出身、または沖縄にゆかりのある美術家の作品を、1年を通して紹介します。（玉城早苗）

【関連催事】

□中・高校生向けギャラリーツアー

【日 時】令和6年2月17日（土） 14:00～15:30

【会 場】美術館講座室・美術館コレクションギャラリー3

【講 師】玉城早苗（展覧会担当学芸員）

【参加者】15人

【内 容】美術館講座室で展示内容について講話を行った後、アートカードを使って、鑑賞の方法や楽しみ方について実践。後半は「対話による鑑賞」を行い「沖縄美術」に対する興味・関心を高める内容とした。



●アートカードゲームの様子



●対話による鑑賞の様子

The History of Okinawa's Fine Arts

2023年7月14日（金）～2024年6月30日（日）
July 14, 2023 - June 30, 2024

沖繩美術の流れ

The History of Okinawa's Fine Arts

2024年1月23日（水）～6月30日（日）
January 23 - June 30, 2024

沖繩美術の流れ

沖繩美術の流れ関連催事

中・高校生向けギャラリーツアー
…コレクションギャラリーで話しましょう！…

2024. 2.17（土）
14:00～15:30
（開場 13:30）

講師 玉城早苗（展覧会担当学芸員）
会場 美術館講座室
コレクションギャラリー
定員 事前申込（要予約）
料金 無料（催し物費は別途）
申込 電話・メールにて受付
申込先 美術館 学芸員課 展覧会担当学芸員 玉城早苗
電話 096-941-8200
FAX 096-941-8201
Eメール 学芸員課@okinawa-museum.jp

あなたも沖縄にゆかり
沖縄県立博物館・美術館
Okinawa Museum of Art and History

「二人で観るのも楽しいけど、誰かの人とつながる感じが嬉しい！」
「一人で観るのも楽しいけど、誰かの人とつながる感じが嬉しい！」

沖縄には、その歴史や風土から育まれた独特な文化があり、沖縄の美術もまた、時代や置かれた立場、状況から多大な影響を受け培われてきた。今回の「中・高校生向けギャラリーツアー」では、近現代の美術作品を中心に、戦前から現代に至る沖縄の美術の移り変わりを鑑賞します。また、作品についてお話しする「対話による鑑賞」にも挑戦します。ぜひ、そして沖縄の美術について感じたこと、思ったことを聞かせてください。

096-941-8200
FAX 096-941-8201
Eメール 学芸員課@okinawa-museum.jp

美術館企画展 「照屋勇賢 OKINAWA HEAVY POP」 会期：令和5年11月3日（金）～令和6年1月21日（日）

南風原町出身のアーティスト・照屋勇賢（1973～）は、ニューヨーク（米国）、ベルリン（ドイツ）、沖縄を拠点に精力的に制作活動をし、その作品は国内外で広く紹介されてきた。この度は企画展として照屋作品の初期から最新作までを展示し、その仕事を通観する初の大規模な個展となった。

照屋の作品は、沖縄のみならず世界中のあらゆる「分断」を乗り越え、互いを認める想像力を持つ。コロナ禍以降、あらゆる場所でさまざまな価値観の分断、そして境界が可視化されていった。そうした状況を乗り越える想像力を持つ照屋勇賢の仕事を紹介し、感染症や環境問題、戦争、価値観の変容など様々な困難を抱える現在において、これからの世界を共に考える企画とした。（大城さゆり）

【関連催事】

□照屋勇賢アーティストトーク

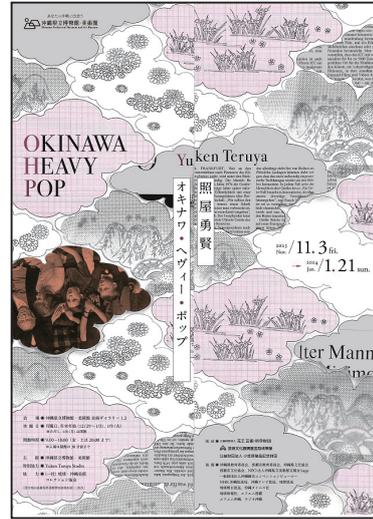
【日 時】 令和5年11月3日（金）10：00～11：00

【会 場】 企画ギャラリー1・2

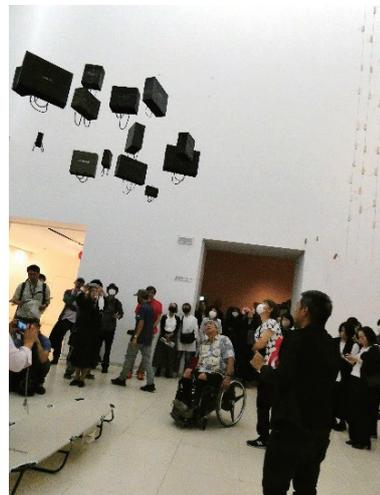
【講 師】 照屋勇賢氏（アーティスト）

【参加者】 87人

【内 容】 照屋勇賢氏が、作品と展覧会について解説を行った。



● 開会式とアーティストトークの様子



□舞踊公演+クロストーク①

【日 時】令和5年11月10日（金）19：00～21：00

【会 場】講堂

【講 師】照屋勇賢氏（アーティスト）、宮城茂雄氏（琉球舞踊家）

仲嶺絵里奈氏（那覇市文化芸術劇場なはーと企画制作主任専門員）

【進 行】大城さゆり（展覧会担当学芸員）

【参加者】129人

【内 容】照屋勇賢氏の紅型作品をテーマに、舞踊公演とクロストークを行った。舞踊では実際に作品を着用し琉球琉舞を披露した。



●クロストークの様子（11月10日）



●舞踊の様子

□学芸員講座+キュレータートーク

【日 時】令和5年12月23日（土）14：00～15：30

【会 場】美術館講座室、美術館企画ギャラリー1・2

【講 師】大城さゆり（展覧会担当学芸員）

【参加者】20人

【内 容】展覧会の意図や作品について、担当学芸員が解説を行った。



●キュレータートークの様子



●学芸員講座の様子

□舞踊公演+クロストーク②

【日 時】令和6年1月13日（土）16：00～18：00

【会 場】講堂

【講 師】照屋勇賢氏（アーティスト）、宮城茂雄氏（琉球舞踊家）

知念ウシ氏（むめかチャー）

【進 行】大城さゆり（展覧会担当学芸員）

【参加者】178人

【内 容】展覧会のテーマとなっている「沖縄」についてクロストークを行った。また、舞踊では、11月に引き続き、実際に作品を着用し琉球琉舞を披露した。



●クロストークの様子（1月13日）

令和5年度美術館事業報告

教育普及事業

※敬称略

1. シンポジウム・講演会・上映会

回	月日	曜日	シンポジウム・講演会	参加人数(人)
1	11月10日	金	照屋勇賢 OKINAWA HEAVY POP 関連催事 「舞踊公演+クロストーク①」 講師：照屋勇賢（アーティスト）、宮城茂雄（琉球舞踊家）、仲嶺絵里奈（那覇市文化芸術劇場なはと企画制作主任専門員） 進行：大城さゆり（展覧会担当学芸員）	129
2	1月13日	土	照屋勇賢 OKINAWA HEAVY POP 関連催事 「舞踊公演+クロストーク②」 講師：照屋勇賢（アーティスト）、宮城茂雄（琉球舞踊家）、知念ウシ（むめかチャー） 進行：大城さゆり（展覧会担当学芸員）	178
3	1月26日 1月27日 1月28日	金 土 日	第14回移動展 in 国頭村《吉屋チルー物語》上映	24

2. アーティスト（ギャラリー）トーク（アーティスト又は研究者による作品解説）

回	月日	曜日	展覧会名	参加人数(人)
1	8月21日	月	照屋勇賢 OKINAWA HEAVY POP 関連イベント 「対談 照屋勇賢×翁長直樹」（撮影） 講師：照屋勇賢（アーティスト） 翁長直樹（沖縄県立博物館・美術館 元美術館副館長） ※対談の内容は、照屋勇賢展の図録に掲載し、映像は会期中に当館エントランスホールとYouTubeで放映	—
2	11月3日	金	照屋勇賢 OKINAWA HEAVY POP 関連催事 「照屋勇賢アーティスト・トーク」 講師：照屋勇賢（アーティスト）	87

3. 学芸員講座+キュレータートーク（美術館学芸員による研究発表および展覧会解説）

回	月日	曜日	展示会名	担当	参加人数(人)
1	12月23日	土	照屋勇賢 OKINAWA HEAVY POP 関連催事 学芸員講座+キュレータートーク	大城さゆり	20
2	2月10日	土	大城皓也作品修復報告展 関連催事 学芸員講座+キュレータートーク	梶原正史	9
3	2月17日	土	沖縄美術の流れ 関連催事 中・高校生向けギャラリーツアー	玉城早苗	15

4. 美術館ミュージアムツアー

- ①内容：普段見ることのできない美術館の裏側とコレクションギャラリーを学芸員が案内する
- ②定員：12人
- ③時間：10:30～12:00
- ④場所：トラックヤード、一時保管庫、収蔵庫、工作室、修復室、展示室作品鑑賞

回	月日	曜日	内容	担当	参加人数(人)
1	5月20日	土	まもる（保存修復）	梶原正史	10
2	7月22日	土	調べる（調査研究）	大城さゆり	10
3	9月16日	土	みせる（展示公開）	大川 剛	13
4	11月11日	土	伝える（教育普及）	玉城早苗	11
5	1月13日	土	伝える（教育普及）	玉城早苗	5

5. ボランティア研修会

（コレクション展に関する内容と鑑賞法の講義 10:00～12:00）

対象：登録ボランティア

回	月日	曜日	講義内容	参加人数(人)
1	5月17日	水	職員紹介・活動計画と事務手続き等説明、ボランティア養成講座	23
2	5月31日	水	アートカードの使い方と美術館の役割について	24
3	6月21日	水	浦添市美術館研修会	23
4	8月9日	水	学校団体の来館を想定した対話型鑑賞の研修会	14
5	9月6日	水	学校団体の来館を想定した対話型鑑賞の研修会	17
6	10月4日	水	学校団体の来館を想定した対話型鑑賞の研修会	17
7	12月20日	水	照屋勇賢展の展示解説と沖縄ろう学校来館に向けた事前準備	16
8	2月7日	水	対話型鑑賞実践と今年度の振り返り、更新書類の説明	11

6. 第7回アートコンクール「テーマ好き」……………応募総数 985 作品
- ①内 訳 小学校の部：288点 中学校の部：279点 高校の部：284点 特別支援の部：134点
 - ②審 査 令和5年10月13日(金)14:00~17:00
 - ③審査員 豊田達雄(うるま市立田場小学校 副校長)、上原秀樹(宜野湾市立真志喜中学校 教諭)
前原有希子(沖縄県立浦添工業高等学校 教諭)、中曽根祐子(沖縄県立那覇みらい支援学校 教諭)
 - ④入賞作品展(1階エントランス) 10月24日(火)~11月12日(日)
7. ワークショップ
- (1) OKINAWA アートワークショップ「スタンドグラスでオーナメント」……………10人参加
 - ①日 時：令和5年4月29日(土)9:30~12:00
 - ②内 容：スタンドグラスの仕組みを学びながら、オーナメント作りに挑戦
 - ③講 師：greenish blue glass
 - ④対 象：18才以上
 - ⑤会 場：こどもアトリエ、県民アトリエ
 - (2) OKINAWA アートワークショップ「おきなわの木で作る豆皿ワークショップ」……………10人参加
 - ①日 時：令和5年5月27日(土)9:30~12:30
 - ②内 容：沖縄の街路樹にも使われるタブノキを材料に、彫刻刀で彫り込んでいく豆皿作りに挑戦
 - ③講 師：あさと木漆工房(安里昌樹)
 - ④対 象：小学校5年生から一般
 - ⑤会 場：県民アトリエ、こどもアトリエ
 - (3) OKINAWA アートワークショップ「つまみ細工 ブローチ・コサージュ・髪飾り」……………9人参加
 - ①日 時：令和5年7月15日(土)9:30~12:30
 - ②内 容：小さな布を折りたたみ、花の形に組んでいくつまみ細工に挑戦
 - ③講 師：布と花(永崎綾之)
 - ④対 象：18才以上
 - ⑤会 場：県民アトリエ、こどもアトリエ
 - (4) OKINAWA アートワークショップ「身近なものを描こう~スケッチ・デッサン~」……………10人参加
 - ①日 時：令和5年7月29日(土)9:30~12:30
 - ②内 容：参加者が大切にしているものをモチーフに、鉛筆を使ったデッサンを体験
 - ③講 師：よねだはるひこ(美術画家)
 - ④対 象：18才以上
 - ⑤会 場：県民アトリエ、こどもアトリエ
 - (5) 夏休み!こどもフェスタ①「形さがし×色あそび」……………10組15人参加
 - ①日 時：令和5年8月12日(土)9:30~11:00
 - ②内 容：未就学児童が楽しめる枯れ葉を使った感触遊びや、作品制作を行う
 - ③講 師：Confetti Project(大中原千陽、本村佳奈子)
 - ④対 象：未就学児と保護者
 - ⑤会 場：博物館実習室
 - (6) 夏休み!こどもフェスタ②「琉球王国にタイムスリップ!あなたも琉球絵師!」……………8人参加
 - ①日 時：令和5年8月12日(土)14:00~16:30
 - ②内 容：琉球王国時代の絵師が使っていた材料を使い、白澤の板絵を制作。モチーフの白澤や当時首里城でお香のように焚かれていた丁子についても解説
 - ③講 師：喜屋武千恵(画家)、篠原あかね(博物館美術工芸担当)
 - ④対 象：小学校1年生から中学校3年生
 - ⑤会 場：博物館実習室
 - (7) 夏休み!こどもフェスタ③「ミニ漆喰シーサーに挑戦!」……………16人参加
 - ①日 時：令和5年8月13日(日)9:30~12:30
 - ②内 容：首里城の被災瓦を使った漆喰シーサーづくりを体験
 - ③講 師：沖縄県琉球赤瓦漆喰施工協同組合(田端 忠、堀切元気)
 - ④対 象：小学校1年生から中学校3年生
 - ⑤会 場：博物館実習室
 - (8) 夏休み!こどもフェスタ④「夏の定番!島ぞうりにオリジナルデザインを彫ろう!」……………5人参加
 - ①日 時：令和5年8月13日(日)14:00~17:00
 - ②内 容：自分で考えた図案をもとに、オリジナルの島ぞうりづくりに挑戦
 - ③講 師：玉城早苗(教育普及担当)、保久村智恵(教育普及担当)
 - ④対 象：小学校5年生から中学校3年生
 - ⑤会 場：博物館実習室
 - (9) OKINAWA アートワークショップ「漆喰シーサーづくりに挑戦!」……………15人参加
 - ①日 時：令和5年10月7日(土)、8日(日)10:00~15:00
 - ②内 容：首里城の被災瓦を土台にした漆喰シーサーづくりに挑戦
 - ③講 師：山城富函、大城幸祐(現代の名工)、沖縄県琉球赤瓦漆喰施工協同組合の皆さん
 - ④対 象：小学校5年生から一般
 - ⑤会 場：こどもアトリエ、県民アトリエ

- (10) OKINAWA アートワークショップ「着なくなった服でつくる裂き布マット」……………3組8人参加
 ① 日 時：令和5年11月19日(日) 9:30~12:30
 ② 内 容：赤ちゃんと保護者を対象に、着なくなった服で裂き布をつくりオリジナルのマットを制作
 ③ 講 師：毛糸屋 amu (上地亜美)
 ④ 対 象：赤ちゃんとママ・パパ
 ⑤ 会 場：こどもアトリエ、県民アトリエ

- (11) OKINAWA アートワークショップ「赤ちゃん和妈妈・パパのためのギャラリートour」……2組6人参加
 ① 日 時：令和5年11月25日(土) 14:00~15:00
 ② 内 容：照屋勇賢展の担当学芸員が、ママ・パパ向けに展示の見どころや作品について解説
 ③ 講 師：大城さゆり(展示会担当学芸員)
 ④ 対 象：赤ちゃん和妈妈・パパ
 ⑤ 会 場：企画ギャラリー1・2

- (12) OKINAWA アートワークショップ「干支紅型でお正月支度」……………15人参加
 ① 日 時：令和5年12月16日(土) 10:00~12:00
 ② 内 容：紅型の歴史を学び、来年の干支「辰」の紅型作成に挑戦
 ③ 講 師：城紅型染工房(吉濱 愛、山城祥子)
 ④ 対 象：小学校5年生から一般
 ⑤ 会 場：こどもアトリエ、県民アトリエ

- (13) 第14回移動展 in 国頭村「ワイヤーアート」-針金で立体をつくらう……………2人参加
 ① 日 時：令和6年1月27日(土) 10:00~12:00
 ② 内 容：身近に手に入るワイヤーを使って、カードスタンドやカゴづくりに挑戦
 ③ 講 師：玉城早苗(教育普及担当)
 ④ 対 象：小学校1年生から中学校3年生
 ⑤ 会 場：国頭村民ふれあいセンター1階

8. 博物館・美術館連携事業

- 慰霊の日関連催事「おきみゅーで平和について考えよう！」美術館えほん読み聞かせ……………23人参加
 ① 日 時：令和5年6月17日(土) 14:00~15:00
 ② 内 容：『ケイ命がおしえてくれたもの -つしま丸・沖繩戦』『戦争をやめた人たち-1914年のクリスマス休戦-』の読み聞かせを行い、平和について考える機会を提供
 ③ 講 師：普久原律子、安次嶺恵子(美術館ボランティア)
 ④ 会 場：1階エントランスホール
 ※エントランスではミニ展示も実施し、絵本読み聞かせ映像の上映と、県立図書館に協力いただいた、戦争関連の書籍の紹介を6月6日から6月25日、8月29日から9月10日の期間行った。

9. 職場体験……………2校7人対応
 キャリア教育の一環として、実際に現場で働く人と接しながら仕事を体験し、「働くこと」について学習する。当館では、来館者対応、接客、博物館と美術館の業務体験を実施している。また今年度は、琉球大学在籍の留学生の受け入れも行った

- ① 対 象：県内中・高校生、留学生
 ② 方 法：各学校からの依頼により実施
 ③ 場 所：コレクション展示室・バックヤード・美術館資料室、その他
 ④ 内 容：施設見学、美術館班資料整理、接客を含む各業務体験

10. 教職員講座

- ① 日 時：令和5年8月1日(火) 10:00~17:00
 ② 対 象：県内小中学校教諭及び造形教育関係者
 ③ 内 容：沖縄県造形教育連盟と協力し、図工・美術教科における指導力向上を目的としたワークショップや、美術館を使った鑑賞授業の提案を行う予定だったが、台風6号の影響で中止

11. 教職員等、研修の受け入れ……………30人参加

回	月 日	曜日	団体名・内容	参加人数(人)
2	8月3日~4日	木・金	令和5年度 中堅教諭等資質向上研修「社会体験研修」	5
3	8月16日~18日	水~金	令和5年度 県立高等学校 中堅教諭資質向上研修	1
4	8月10日	木	令和5年度 県民カレッジ 「沖縄県立博物館・美術館バックヤードツアー」	24

12. 学芸員実習.....10人対応

- ① 期間：令和5年8月14日（月）～8月25日（金）
- ② 参加校：沖縄県立芸術大学、神戸大学
- ③ 内容：保存保管環境、展示方法、絵画・彫刻・写真等作品の取り扱いに関する美術館学芸員業務全般

月日	曜日	実習内容（午前）	実習内容（午後）
8月14日	月	開講式、リレイン、美術館業務の考え方と実際	美術館の役割や仕事について、美術館施設案内等
15日	火	調査・研究の概要、資料収集事業の概要等	展覧会開催までの流れ、展示企画書等の作成演習
16日	水	教育普及事業Ⅰ、学校支援プログラム等	アートカード、対話による鑑賞の実践等
17日	木	「ニシムイ」について、博物館常設展の見学	「ニシムイ」フィールドワーク
18日	金	交流員の仕事体験（作品監視）+資料整理体験	各自、調査・課題研究を行う
21日	月	IPM講習、資料保存・修復の実際	展示作品の解説（修復した作品等を解説する）
22日	火	各自、調査・課題研究を行う	各自、調査・課題研究を行う
23日	水	各自、調査・課題研究を行う	各自、調査・課題研究を行う
24日	木	各自、調査・課題研究を行う	各自、調査・課題研究を行う
25日	金	共通課題研究の発表、閉講式	実習のまとめ→実習記録簿等の提出

13. 団体見学対応1126人参加

（ガイドボランティアによる対話鑑賞・教育普及学芸員によるバックヤード・キャリアプログラム等）

回	月日	曜日	学校名	内容	参加人数（人）
1	4月25日	火	岡山市立山南学園（中等部2年）	博物館実習室（キャリア教育解説）	10
2	9月8日	金	那覇市立城東小学校（6年）	出前授業	80
3	9月15日	金	那覇市立城東小学校（6年）	美術館コレクション展、博物館常設展	76
4	9月26日	火	沖縄市立比屋根小学校（1年）	美術館コレクション展、博物館常設展	125
5	9月27日	水	糸満市立糸満小学校（4年）	美術館コレクション展、博物館常設展	91
6	10月25日	水	読谷村立古堅南小学校（4年）	美術館コレクション展、博物館常設展	99
7	11月9日	木	うるま市立南原小学校（5年）	美術館コレクション展、博物館常設展	49
8	12月13日	水	沖縄県立沖縄ろう学校 （中学部1～3年）	出前授業	7
9	12月14日	木	沖縄県立浦添工業高等学校（1年）	美術館コレクション展、博物館常設展 美術館バックヤード	午前 37 午後 41
10	12月15日	金	八重瀬町立東風平小学校（5年）	出前授業	187
11	12月20日	水	沖縄県立石川高等学校（2年）	美術館コレクション展、博物館常設展 美術館バックヤード	4
12	12月22日	金	沖縄県立沖縄ろう学校 （中学部1～3年）	美術館コレクション展、博物館実習室	15
13	1月16日	火	沖縄県立那覇みらい支援学校 （小学部6年）	出前授業	8
14	1月17日	水	沖縄県立那覇みらい支援学校 （小学部6年）	美術館コレクション展	14
15	1月18日	木	八重瀬町立東風平小学校（5年）	美術館コレクション展、博物館常設展	172
16	1月18日	木	沖縄県立開邦高等学校（1・3年）	美術館コレクション展、美術館企画展	21
17	2月1日	木	金武町立中川小学校（6年）	美術館コレクション展、博物館常設展 博物館企画展	20
18	2月20日	火	八重瀬町立新城小学校（5年）	出前授業	55
19	3月5日	火	恩納村立安富祖小学校（5年）	美術館コレクション展、博物館常設展	15

[さいごに]

歴史的な名作に出会い、文化的な意味や意義を探ったり、現代アートの深いメッセージを読み取ったりするなど、美術館における「鑑賞」は大きな楽しみのひとつです。その「鑑賞」をより深く楽しんで頂くために、当館では学芸員による講話や展覧会の解説、ミュージアムツアーやアーティストによるトークイベントなどを実施しています。さらに、「表現活動」としてのワークショップ、地域に出かけるアウトリーチなど、美術館ならではの多彩な楽しみ方を提供しています。美術が好きな方たちにとって、美術館はとても癒される、過ごしやすい場所となっていることでしょう。

しかし一方では、「美術館は敷居が高い」、「赤ちゃんがいると、または障害があると美術館へは行きづらい」と感じる方もいらっしゃいます。そのように感じている方々にとって、「誰もが行きやすく、楽しめる美術館」になるために、当館にできることは何か？2020年からのコロナ禍を経て、当美術館も「社会教育施設」としての在り方や、教育普及活動の方法を、改めて見つめ直す時期が来ているのではないかと感じます。これまでの「知識や情報」を教え育てるといった「教育普及活動」から、自発的で主体的な「学び・ラーニング」へとシフトチェンジしていくことを、模索する時期が来ているように感じます。

今後も、当美術館では「美術館とは何か？」ということを考えて共に、訪れてくださる皆様にとって、当館が美術の楽しさや素晴らしさに「出会う場」となり、人と語り、自分自身をみつめ、新たな自分を「発見する場」となることを目指していきたく思います。

10年後、50年後、そして100年後の未来に「沖縄の文化・芸術」を繋げていくこと、さらには、一人でも多くの方が美術（アート）を身近に感じ、美術（アート）と親しんで頂けたら幸いです。今後も、より多くの皆様に足を運んで頂けますよう、楽しく充実した教育普及活動を展開し、提供できるよう取り組んで参ります。

最後になりましたが、今年度もトークイベントやワークショップ等に関わって頂いた多くのアーティストや講師の皆様、展覧会関係者の皆様、そして美術館を支えて頂いているボランティアの皆様、たくさんの方々のお力添えのおかげで、この報告書をまとめることができました。この場をお借りし、ご協力頂いた多くの皆様に感謝申し上げますと共に、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り致します。

沖縄県立博物館・美術館

美術館教育普及担当 主任学芸員 玉城早苗

令和5（2023）年度
沖縄県立博物館・美術館
《美術館教育普及報告書》

2024年3月31日

発行

沖縄県立博物館・美術館
沖縄県那覇市おもろまち3-1-1
TEL 098-941-8200（代表）
FAX 098-941-2392（代表）

教育普及担当

玉城早苗（沖縄県立博物館・美術館）
又吉貴美子（沖縄県立博物館・美術館）
保久村智恵（一般財団法人 沖縄美ら島財団）

印刷

企画印刷 ハーツ
那覇市繁多川3丁目13番8号
TEL 098-835-3752
FAX 098-835-3754